



# 大災害を共に乗り越える

## 災害現場をいち早く調査、国際協力で復興と減災を支援

未曾有の津波被害をもたらした東日本大震災。2度にわたる震度7の大地震に見舞われた熊本地震。火山噴火や台風、洪水など日本列島は過酷な災害が相次いでいる。この間、アジアの国々でも大規模な自然災害に遭遇し、多くの生命や財産が失われてきた。こうした大災害を乗り越え、感染症などの拡大を防ぎ、より強靱な社会を作るため、災害直後の調査と研究を支援するJSTの国際緊急共同研究・調査支援プログラム「J-RAPID (ジェイ・ラ

ピッド)」が各地で活躍している。

その中から、昨年4月のネパール地震の現場で、建築物の被害調査と耐震性能向上のためのロードマップ作りにも乗り出した東京大学地震研究所の楠浩一准教授のグループと、感染症の拡大予防の災害看護に力を入れる高知県立大学の神原咲子准教授のグループの活動を紹介する。

